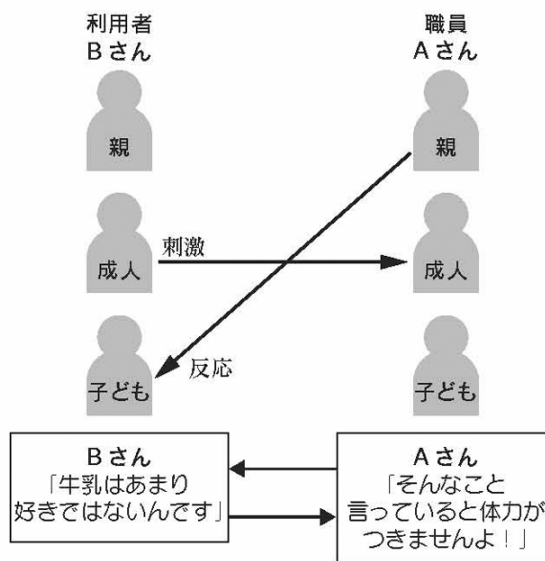


3) かみ合わないやりとり

一方、右図のように、会話の投げかけの向きが交差したやりとりは「かみ合わないやりとり」です。期待した自我状態とは違う自我状態が相手の答えのなかに出てきて、しかもそれが話しかけた人の別の自我状態に答えている場合です。

これは、利用者のBさんが、「牛乳はあまり好きではないんです」と職員のアさんに「成人」どうしの会話をしようと話しかけたのに、「そんなこと言っていると体力がつかまませんよ!」と「批判的な親」から頭ごなしに言われ、子ども扱いられてしまった例です。

こういうやりとりをしているときは、Bさんのほうに、もうこの人とは話したくないという感情が残ってしまい、悪くすると、ここでコミュニケーションがストップしてしまいます。



4) 隠されたやりとり

また、右図のように、話している言葉の裏に隠されたメッセージがあって、相手も隠されたメッセージのほうに答えているやりとりを「隠されたやりとり」といいます。ここでは同時に2つの自我状態で話されています。

例を挙げると、
 利用者：「お水を持ってきてください」
 (もっと面倒をみてください)
 職員：「そんなに飲むと体によくないですよ」
 (忙しいんだから、こっちの身にもなってよ)
 というようなやりとりです。

「」の中の会話は表面上で、本当の気持ちは（）の中のほうなのです。

